設置説明書

この機器の設置には資格が必要です。

食 器 洗 い 乾 燥 機

型　　式
RKW-D401GPA, RKW-D401GPMA, RKW-D401UGP, RKW-D401UGPM RKW-D401LPA, RKW-D401LPMA, RKW-D401ULP, RKW-D401ULPM RSW-D401GPA, RSW-D401GPEA, RSW-D401LPA, RSW-D401LPEA RSW-D402ULP, RSW-D402ULPE

本商品にはシャープ株式会社のプラズマクラスター
技術を搭載しています。
プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、
Plasmacluster は、シャープ株式会社の商標です。

JW0022-826×01（00）
260500Ⓐ
（工場管理）　07000008097250

Rinnai

もくじ

1 安全上のご注意 — 1
2 各部の名称および寸法図 — 3
3 付属品の確認 — 4
4 設置場所について — 4
5 電気工事 — 6
6 配管工事 — 7
7 設置 — 9
8 設置後の点検 — 20
9 試運転 — 21
10 異常報知について — 22
11 試運転後の作業 — 24
12 冷却排水の設定 — 24
13 お客様への説明 — 24
14 仕様 — 27

設置される方へのお願い

- **この機器を正しく安全にご使用いただくために、この設置説明書をよくお読みになり、法律に基づいて指定された設置を行ってください。**
- **配管工事はすべて、水道法、建築基準法、各都市の条例規定に準じてください。**
- **設置が終ったら「8　設置後の点検」のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。**
- **試運転終了後、止水栓を開いたままにしておいてください。また長期間使用しない場合は、安全のため家屋の元水栓を閉めてください。また配電盤のブレーカは OFF にしないでください。**

1 安全上のご注意

この設置説明書では製品を正しく設置をしていただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った設置をすると、あなたおよびお客様が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定されることを表しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った設置をすると、あなたおよびお客様が軽傷を負う可能性が想定される、また、物的損害のみの発生が想定されることを表しています。

絵表示について次のような意味があります。

 一般的な注意（警告含む）　 一般的な禁止　 必ず行う　 アース線の接続

◉設置完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。

⚠警告

お客様へ

■据え付けはお買い上げの販売店、または専用業者に依頼する

ご自分で据え付けをされ不備があると水漏れや感電・火災の原因になります。



⚠警告

設置される方へ

■アースを確実に取り付ける

●故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

●アースの取り付けは販売店にご相談ください。

■定格15A のコンセントを単独で使用する

他の機器と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。

■電源プラグは刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく

火災の原因になります。

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不十分の場合、感電や発火の原因になります。

■機器は水平器を用いて、水平で安定した場所に設置する

万一水漏れした場合、安全装置が作動せず、被害が大きくなることがあります。

⚠注意

設置される方へ

■電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

感電・ショート・発火の原因になります。

■交流100V 以外では使用しない

火災・感電の原因となります。

■電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしない

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

■設置部品は必ず付属品および指定部品を使用する

当社指定部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電の原因になります。

■製品の移動や据え付け時は手袋をして作業を行う

万一のけが防止のためです。

■給湯、排水配管の端面はバリのないよう処理する。かつ管内に残っている異物（切り粉など）を完全に取り除く

配管つまりによる故障や、水漏れの原因となります。

■凍結のおそれがある場所（室温 0 ℃以下）へは設置しない

水漏れの原因になります。

■電源回路は専用回路として、漏電しゃ断器を設置する

主幹に漏電しゃ断器が設けてある場合は、新たに漏電しゃ断器を設置する必要はありません。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

感電・ショート・発火の原因になります。

■設置および試運転終了後、配電盤のブレーカは OFF にしない

ブレーカが OFF になっていると、万一水漏れした場合、安全装置が作動せず、被害が大きくなることがあります。

■元付け型の浄水器に接続しない

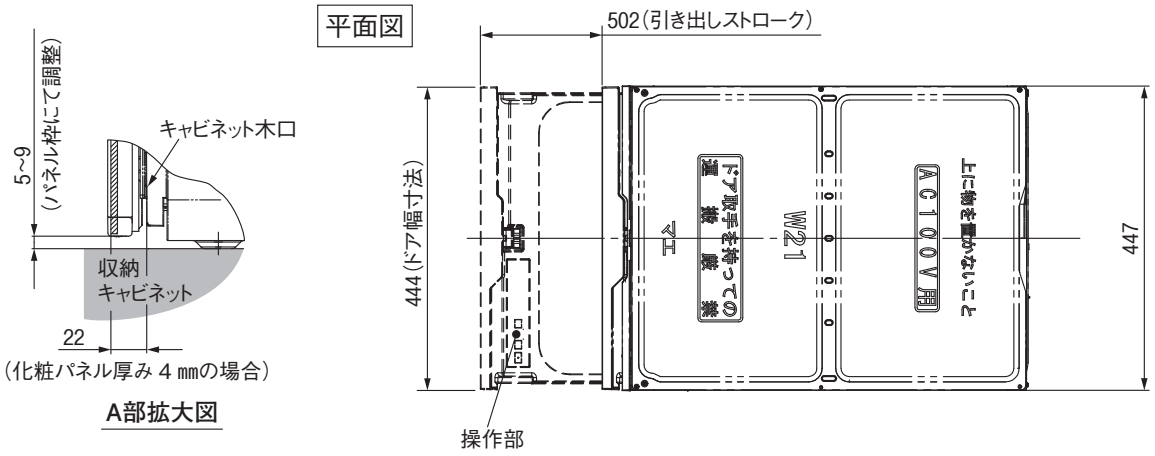
元付け型の浄水器に接続した場合、残留塩素濃度が0.1ppm 未満となり屋内に給水される水が細菌などに汚染されるおそれがあります。※水道法の基準は0.1ppm 以上

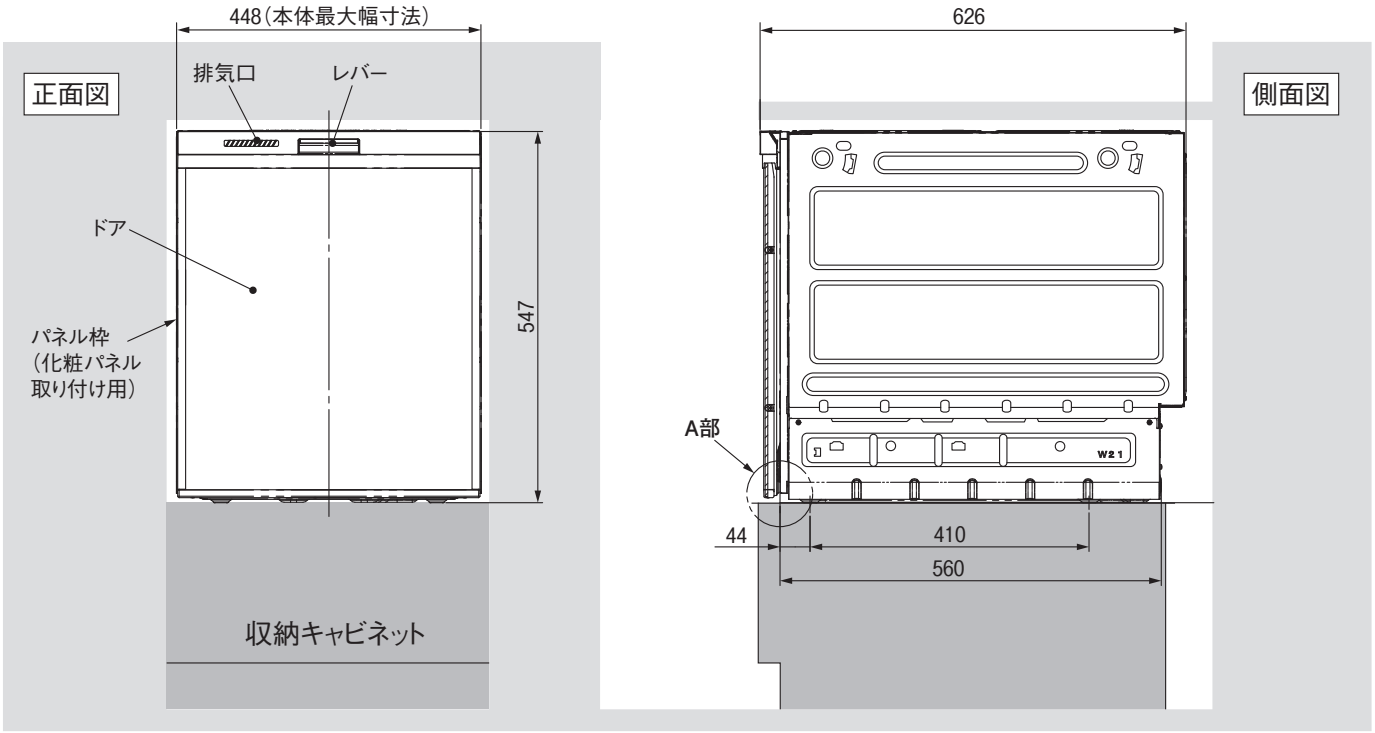
2 各部の名称および寸法図

（単位：mm）

◉ビルトイン奥行き650mm 以上必要です。

※本機は、奥行き600mm のキッチンには
設置できません。





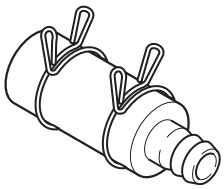
（図１）

3 付属品の確認●設置を始める前に付属品の有無を確認してください。

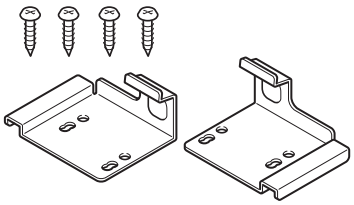
◉金具取付シート以外の付属品は、本体の中に同梱されています。金具取付シートは本体の側に梱包してあります。

設　置　に　必　要　な　付　属　品

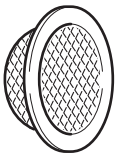
○接続ジョイント
（ホース、ソケット、ホースバンド（2個）のセット）



○転倒防止金具K（右、左）
○先トガリねじ（4本）
〔呼び径4×長さ12mm〕

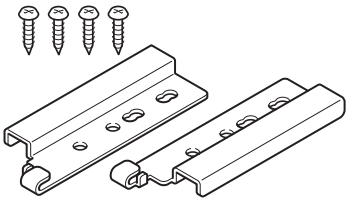


○フィルター付パッキン

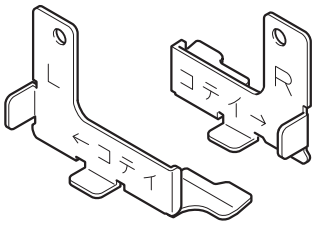


※フィルター付パッキンは給水ホースの先端の袋ナットとキャップの間に入っています。

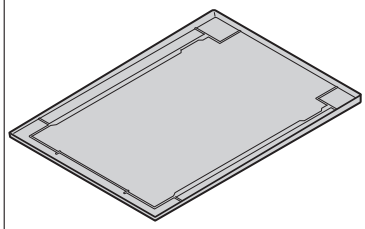
○移動防止金具K（右、左）
○先トガリねじ（4本）
〔呼び径4×長さ12mm〕



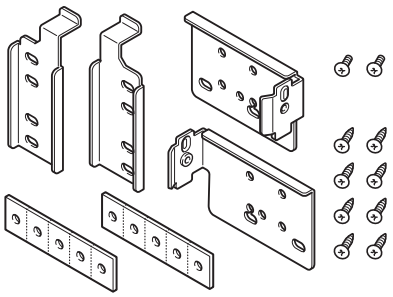
○移動防止金具P（右、左）
（2個）



○金具取付シート



○取り付けフック上（2個）
○取り付けフック下（2個）
○先トガリねじ（8本）
〔呼び径4×長さ12mm〕
○タッピンねじ（2本）
○スペーサー（2個）

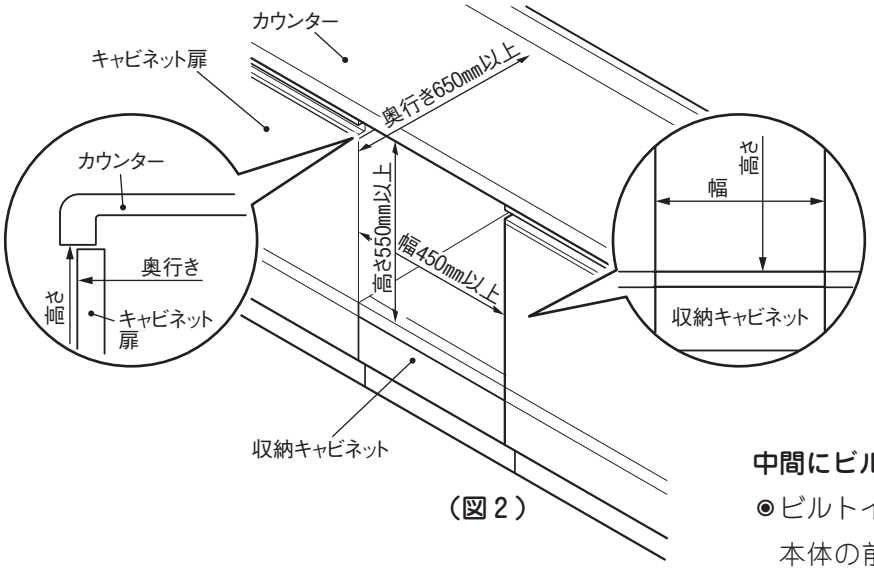


※ RKW-D401GPMA, D401LPMA のみ

4 設置場所について

1 設置場所の確認

1．ビルトインスペースの確認



（図2）

中間にビルトインする場合（図2）

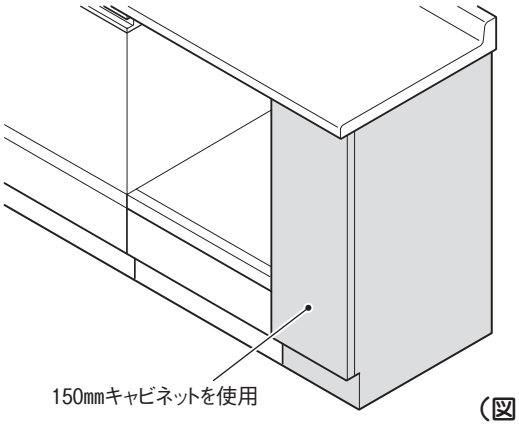
◉ビルトイン後も製品のメンテナンスのため、本体の前面に750mm 以上のスペースを確保してください。

※奥行き：キャビネット扉前面からの寸法
　幅　：収納キャビネット側板内側の寸法
　高　さ：収納キャビネット天板から
　　カウンター下面までの寸法

片側がフリーの場合（図３）

◉片側がフリーの場合、幅150mm キャビネットなどを使用して、カウンターを支える処置をします。

奥行き	幅	高さ
650mm 以上	450mm 以上	550mm 以上



（図３）

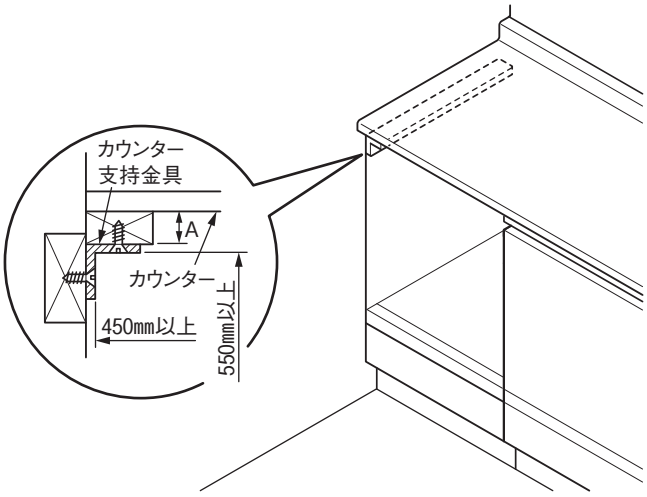
片側が壁面または、トールユニットの場合（図４）

◉カウンター支持金具は市販のＬ金具を使用します。

※締結ねじの長さは、右図のⒶ寸法より5mm 以上短くして、カウンターの金属部に接触させないでください。法令（電気設備の技術基準の解釈）により義務づけられています。

◉ビルトイン型加熱機器などと並べて設置しますと、カウンター上に荷重をかけた時、たわむことがありますので、補強処置を施してください。（市販のＬ金具を使用します。）

奥行き	幅	高さ
650mm 以上	450mm 以上	550mm 以上

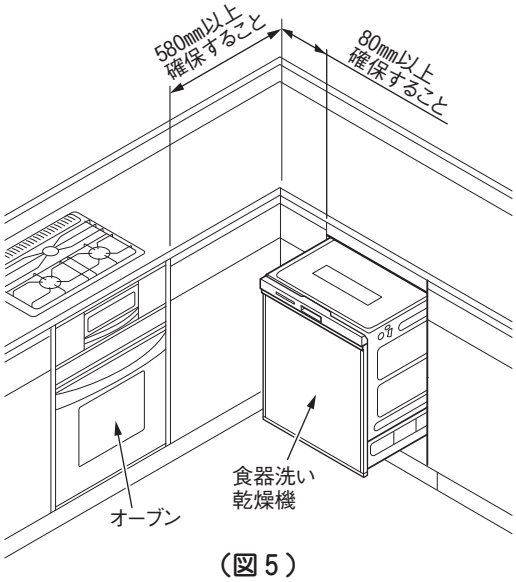


（図４）

お願い

◉Ｌ型配列のコーナー部に設置すると、本機のドアを開閉する際にオーブンの取っ手部に当たり、故障修理の際に本機が引き出せない場合がありますのでドア開閉のスペースを確保してください。（図５）

※本体の金属部品が、家屋の壁中のラスや金属板、流し台のステンレス天板と電気的に接触しないようにしてください。法令（電気設備の技術基準の解釈）により義務づけられています。

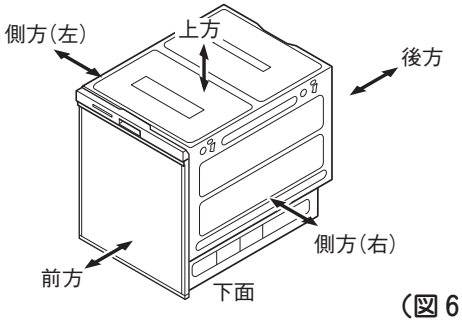


（図５）

◉この食器洗い乾燥機は「消防法告示第一号（対象火気設備などおよび火気器具などの離隔距離に関する基準）」に適合しております。

建築物の可燃物などからの離隔距離は以下の表に掲げる値以上の距離を保ってください。（図６）

消防法　基準適合　組込型			
可燃物からの離隔距離（cm）			
上方	側方	前方	後方
0	0	—	0



（図６）

5 電気工事

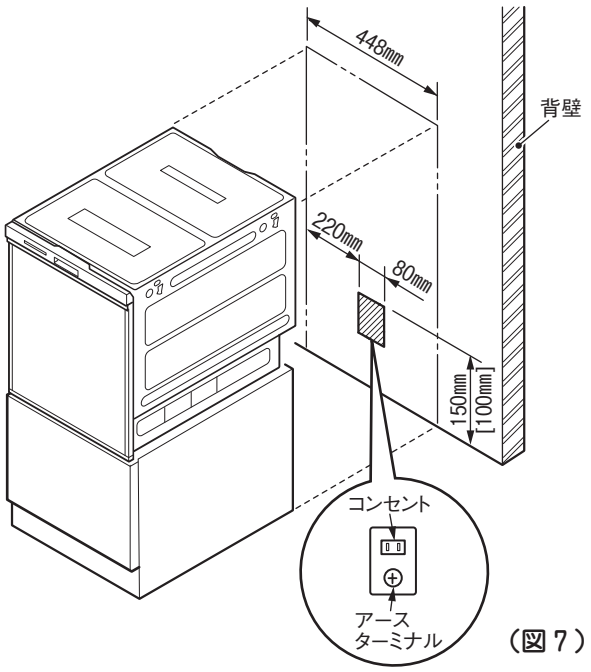
1 電源の確認

■工事はすべて電気設備技術基準に準じて行ってください

◉電源回路は100V、15A の専用回路が必要です。

◉本体を設置する場所の背壁に、給・排水管工事部分を避けた位置（図７）に埋め込みボックスを設け、これに電源電線、アース線を配線しておいてください。
（コンセントは125V、15A のアースターミナル付埋め込みコンセントを設けてください。）

◉本体の電源（電圧、周波数）表示は銘板に示しています。
（20ページの図49）



（図７）

※寸法はキッチン高さ850mm の場合、
［ ］はキッチン高さ800mm の場合

⚠警告

■15A のコンセントを単独で使用する

他の器具と併用したり、容量以下のものは、異常発熱して発火する原因になります。

⚠注意

■電源回路は専用回路として、漏電しゃ断器を設置する

主幹に漏電しゃ断器が設けてある場合は、新たに漏電しゃ断器を設置する必要はありません。
漏電しゃ断器は、住宅分電盤用小型漏電ブレーカー（定格電流15A、感度電流15mA）をご使用ください。

2 アースについて

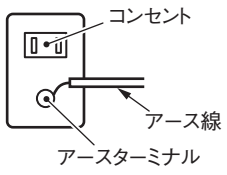
◉市販の炭素接地棒を使用される場合、アース工事は必ずお買い上げの販売店か電気工事店にご依頼ください。
（電気工事士の有資格者がＤ種（第３種）接地工事をするよう法令で定められています。）

◉ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。（法令などで禁止されています。）

◉アースターミナル付埋め込みコンセントは、接地抵抗値（100Ω以下）をご使用ください。
（接続方法は12ページの図21参照）

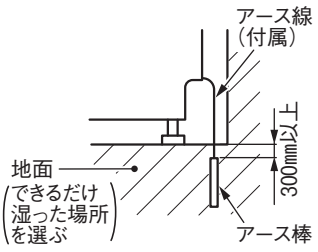
◉設置場所の変更やご転居の際には、再度アースの取り付けをしてください。
（アース工事は有料ですのでご了承ください。）

アースターミナル付埋め込みコンセントの場合



（図８）

アース棒を使用の場合



（図９）

⚠警告

■アースを確実に取り付ける

故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

アース確認

■アース線はガス管や水道管、電話や避雷針のアース線に接続しない

アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

6 配管工事

1 配管工事

給湯・給水工事、排水工事例

■本機は配管直結タイプですので設計および施工工事の段階で給・排水の位置決めは正確に行ってください

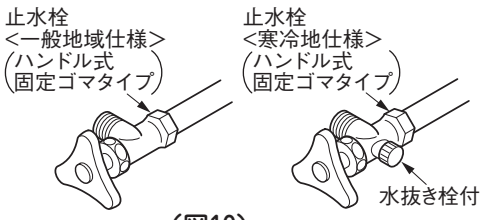
◉給水装置工事（配管工事）は、各市町村にて施工承認を受けた後、指定工事業者が施工してください。
◉給湯管は給湯用塩化ビニルライニング鋼管（相当品）を使用してください。
◉配管工事が図12～14の寸法になっているか確認してください。（必ず床上に、この寸法で配管してください。）
◉排水配管は呼び径以上のものを使用してください。かつ曲折部は90°ベンド、45°ベンドを使用してください。
◉給湯（給水）、排水配管の端面は、バリのないよう処理してください。かつ管内に残っている異物（切り粉など）を完全に取り除いてください。配管つまりによる故障や、水漏れの原因となります。
◉排水本管に至るまでの接続部品（図示していない）も耐熱塩ビを使い、配管用接着剤は耐熱用を使用してください。
◉本機が使用できる水道圧力は0.03～1 MPa（0.3～10.0kgf/cm²）の範囲ですが、配管の状態によっては圧力が上昇する場合がありますので、高水圧地域（0.6MPa（6kgf/cm²）以上）では減圧弁を取り付けて0.2MPa（2kgf/cm²）程度に減圧してください。水圧が高すぎると水漏れの原因になります。

⚠注意

■高水圧になる場合は減圧弁を必ず取り付ける
水漏れの原因になります。

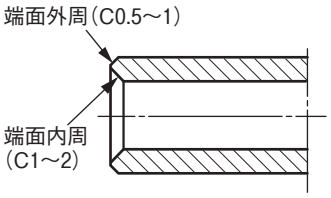
■70℃以上のお湯が供給される給湯（水）栓への配管には接続しない
故障の原因になります。

◉アングル型止水栓または、ストレート型止水栓（ハンドル式固定ゴマタイプ）を必ず取り付けてください。（図10）
※寒冷地に設置する場合は、水抜き弁を有した寒冷地仕様の止水栓を取り付けてください。



（図10）

◉排水管 HT20の端面内周に、面取り（C1～2）を施してください。端面外周は面取り（C0.5～1）をつけるとホースの挿入が容易になります。（図11）



（図11）

給湯器の確認

◉給湯接続の場合は10号以上のガス給湯器、石油給湯器、中型以上の深夜電力利用温水器などで70℃未満の温度に調整可能な機器に接続してください。

⚠注意

■元止め式ガス湯沸器、小型深夜電力利用温水器からの配管は絶対しない

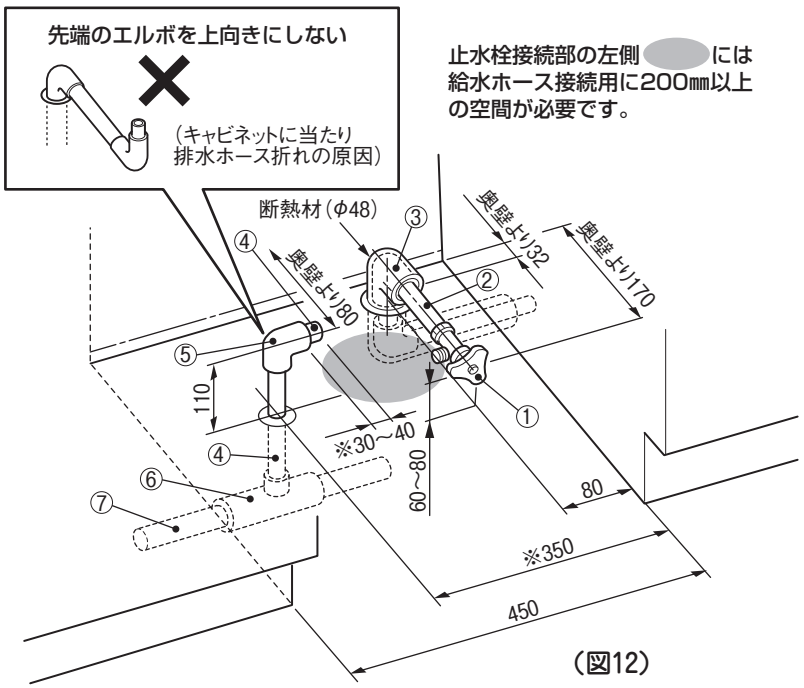
■特に高水圧地域（0.6MPa（6kgf/cm²）以上）では給湯器に所定の減圧弁を必ず取り付けて0.2MPa（2kgf/cm²）程度に減圧する

配管例

◉※印寸法は必ずお守りください。排水ホースが折れ排水不良の原因となります。
◉給水ホースが止水栓に当たる場合は、フレキシブルホース（現地手配品）などを使用してください。
◉下記配管例以外の施工をする場合はお買い上げの販売店へご相談ください。
（注）床からの寸法は、キャビネットなどの設置時に床面に干渉しないための推奨寸法です。

（単位：mm）

床立上げの配管例

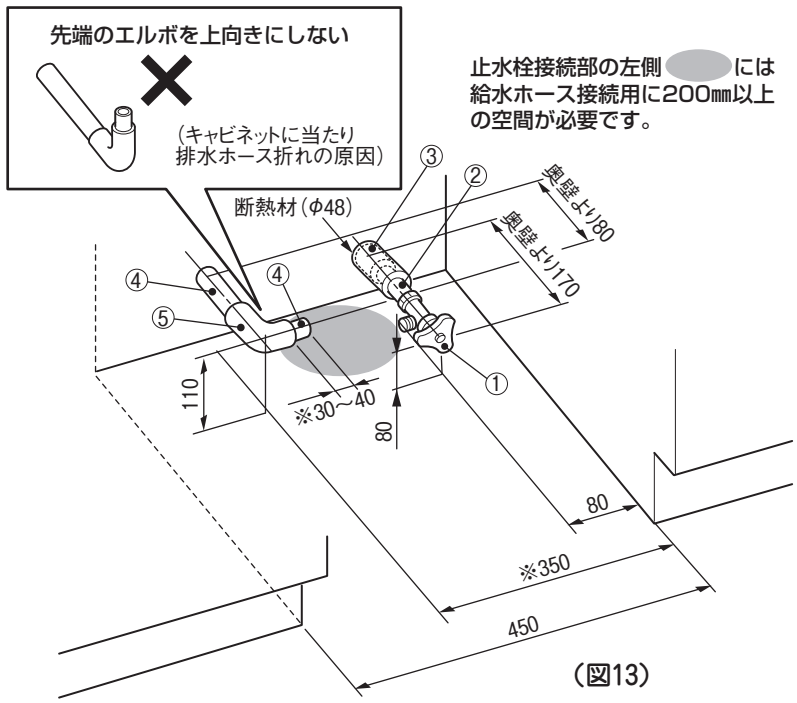


（図12）

給水（給湯の場合は耐熱配管）
①アングル型止水栓
（ハンドル式固定ゴマタイプ）
②硬質塩化ビニルライニング鋼管
③ Rc1/2エルボ

排水（耐熱塩ビ使用のこと）
④ HT20
⑤ HT20エルボ
⑥ HT40×20チーズ
⑦ VP40

壁出しの配管例



（図13）

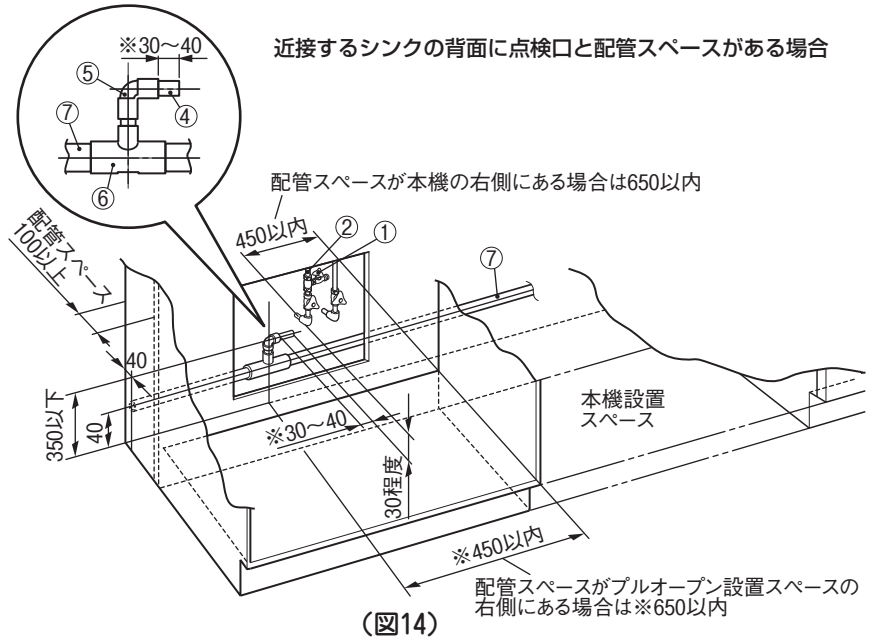
給水（給湯の場合は耐熱配管）
①アングル型止水栓
（ハンドル式固定ゴマタイプ）
②硬質塩化ビニルライニング鋼管
③ Rc1/2ソケット

排水（耐熱塩ビ使用のこと）
④ HT20
⑤ HT20エルボ

1 配管工事

床ころがしの配管例

（単位：mm）



（図14）

給水（給湯の場合は耐熱配管）
①アングル型止水栓
（ハンドル式固定ゴマタイプ）
②硬質塩化ビニルライニング鋼管
③チーズ

排水（耐熱塩ビ使用のこと）
④ HT20
⑤ HT20エルボ
⑥ HT40×20チーズ
⑦ VP40

◉本機が使用できる水道圧力は0.03～1MPa（0.3～10.0kgf/cm²）の範囲ですが、配管の状態によっては圧力が上昇する場合がありますので、高水圧地域（0.6MPa（6kgf/cm²）以上）では減圧弁を取り付けて0.2MPa（2kgf/cm²）程度に減圧してください。水圧が高すぎると水漏れの原因になります。

⚠注意

■高水圧になる場合は減圧弁を必ず取り付ける

水漏れの原因になります。

7 設　置

1 準備

※本機の設置予定場所に事前に設置されている収納キャビネットの構成部材の一部を取りはずしてください。

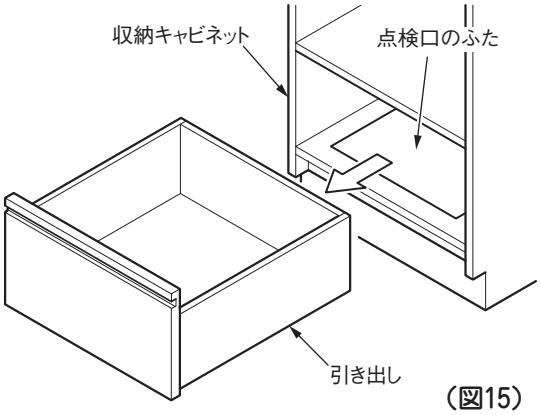
引き出しを取りはずします

◉引き出しをはずすだけで内部に事前の配管が見える場合は、他に取りはずす部材はありません。

◉引き出しを抜いた内部の底面に点検口のふたがあるものは、これを取りはずします。
（点検口の中に事前の配管が見えます。）

◉取り出した引き出しおよび点検口のふたは「試運転」終了まで取り出した状態にしておきます。

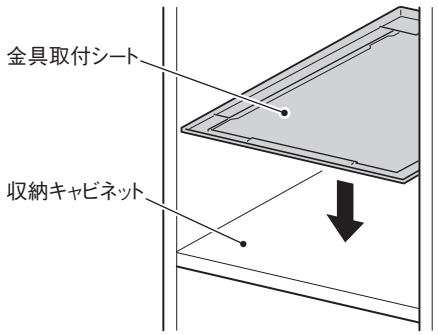
※収納キャビネットの構成が上記と異なる場合は、事前の配管が見えるようになるところまで部材をはずしてください。



（図15）

2 金具取付シートの取り付け

◉金具取付シートに記載されている説明に従って、金具取付シートを収納キャビネットに取り付けてください。



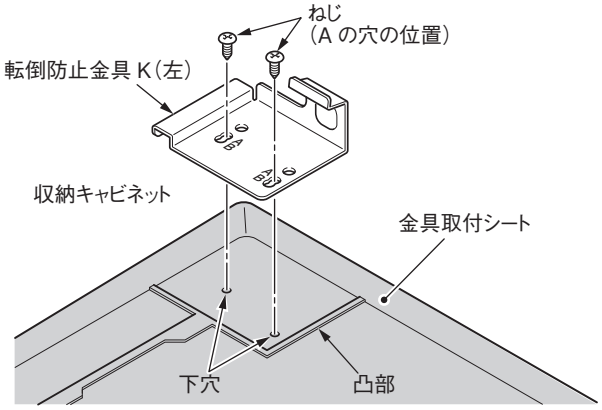
（図16）

3 転倒防止金具の取り付け

◉付属品は、本体の中に同梱されています。

◉転倒防止金具K（左）を金具取付シートに記載されている説明に従って、Aの穴の位置に2本の先トガリねじで収納キャビネットに取り付けてください。

※収納キャビネットに下穴があいている場合は、化粧パネル仕様はB、面材仕様はAの穴を使用してください。
それぞれの穴位置で前面が合うようになっています。



（図17）

◉転倒防止金具K（右）（同梱）も同様の手順で取り付けてください。

※金具取付シートの凸部をのりこえないように転倒防止金具Kを押さえながら、取り付けてください。

⚠注意

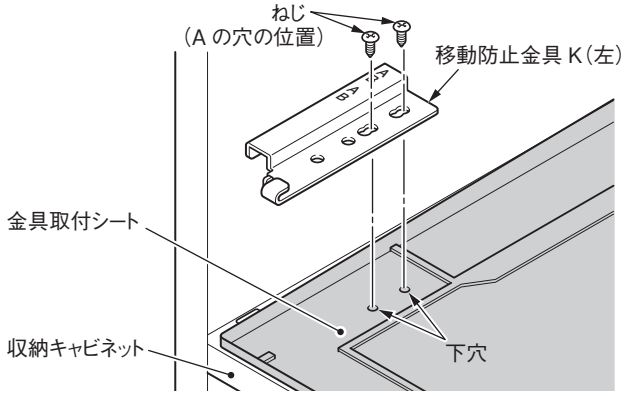
■電動ドライバーは使用しない

ねじ山がつぶれて締まらなくなるおそれがあります。

4 移動防止金具の取り付け

◉移動防止金具K（左）を金具取付シートに記載されている説明に従って、Aの穴の位置に2本の先トガリねじで収納キャビネットに取り付けてください。

※収納キャビネットに下穴があいている場合は、化粧パネル仕様はB、面材仕様はAの穴を使用してください。
それぞれの穴位置で前面が合うようになっています。



（図18）

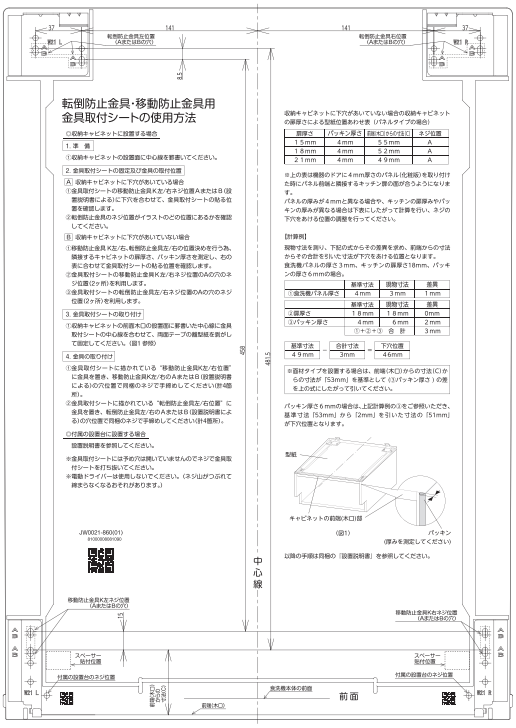
◉移動防止金具K（右）（同梱）も同様の手順で取り付けてください。

⚠注意

■電動ドライバーは使用しない

ねじ山がつぶれて締まらなくなるおそれがあります。

※転倒防止金具Kおよび移動防止金具Kの取り付け位置



（図19）

⚠注意

■移動防止金具と転倒防止金具は、必ず所定の位置に取り付ける

本体が移動して水漏れが起きるおそれがあります。

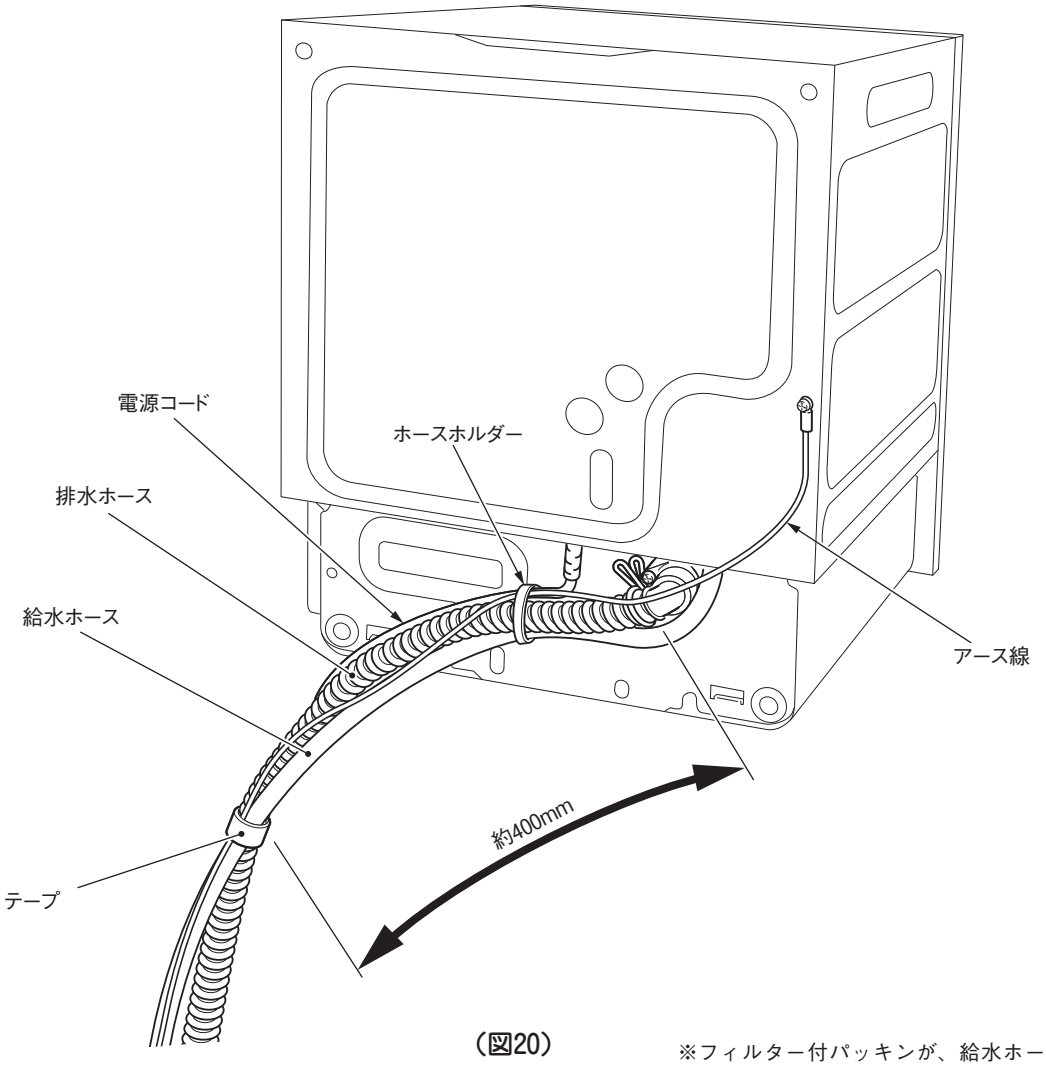
5 ホース、コード類の結束

◉本体後面の給水ホース、排水ホース、電源コード、アース線を下図のようにテープで結束してください。

お願い

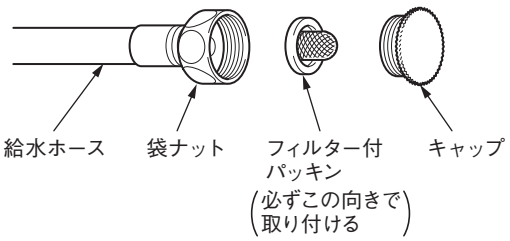
◉本体をキャビネットにビルトインする時に電源コード、アース線、ホース類が転倒防止金具にかみ込まないようにするためです。また、作業も容易になります。必ず行ってください。

◉はさみでホースホルダーを切って、電源コード、アース線、ホース類を傷つけないようにホースホルダーからはずしてください。



（図20）

※フィルター付パッキンが、給水ホースの先端の袋ナットとキャップの間に入っていますのでなくさないでください。



⚠注意

■ホースホルダーを切る際に、電源コード、アース線、ホース類を傷つけない

■給水ホース、排水ホースの上に本体を載せない

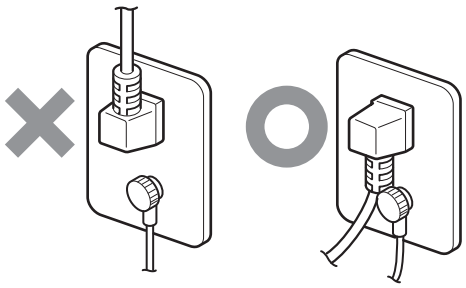
給水ホース、排水ホースが破損し、水漏れの原因になります。

6 電源コード・アース線の接続

①アース線をアースターミナルに接続してください。

②電圧が100V であることを確認してから、埋め込みコンセントに電源プラグを差し込んでください。

※200V 電源に差し込むと、瞬時に故障します。



（図21）

⚠注意

■電源プラグはコードが下方向に出るようコンセントに差し込む

コードが上方向に出ますと、機器をビルトインしたとき、コードが傷つくことがあります。

⚠警告

■電源プラグは刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく

火災の原因になります。

⚠注意

■電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

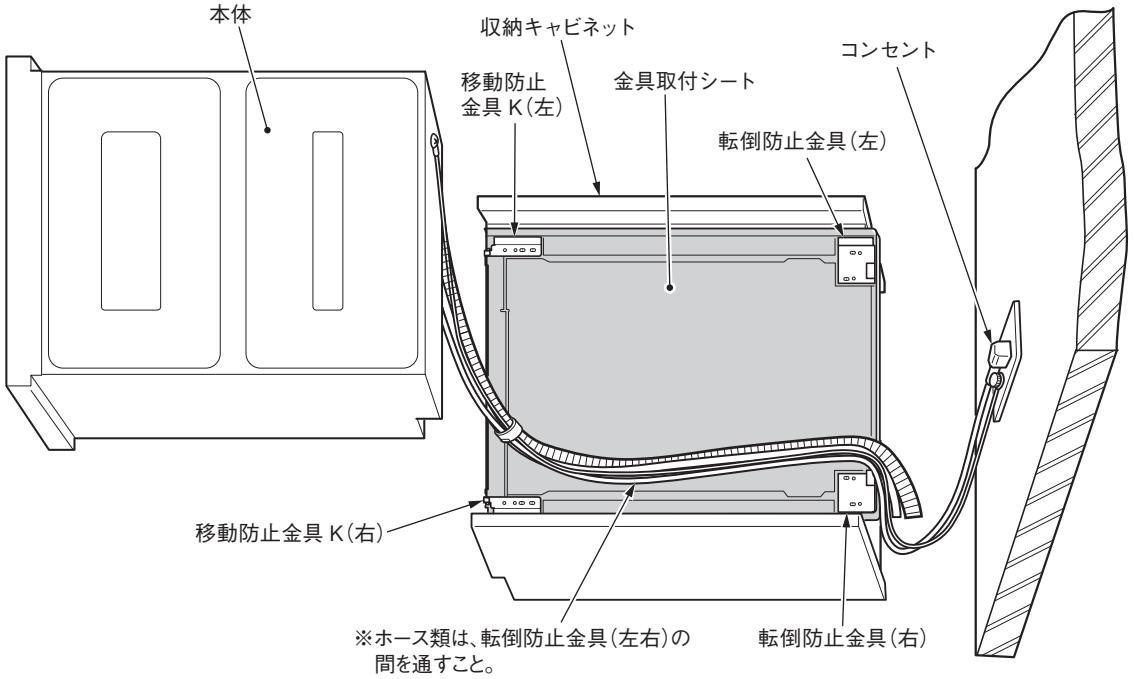
感電やショートして発火することがあります。

■電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

感電・ショート・発火の原因になります。

■電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしない

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

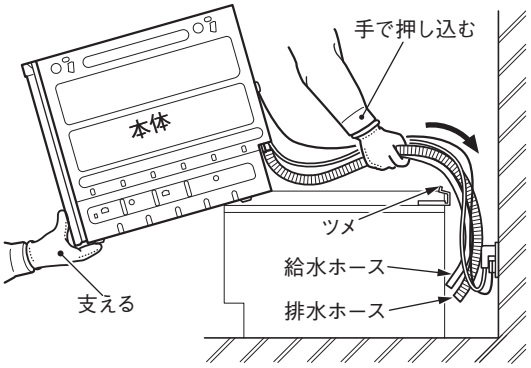


（図22）

7 本体のビルトイン

①本体の後脚を収納キャビネットに乗せ、前に傾けた状態で給水ホースと排水ホースを転倒防止金具の左右の間から収納キャビネットの下側に挿入する。(図23)

※挿入する前に、転倒防止金具のツメが変形していないか確認してください。



(図23)

お願い

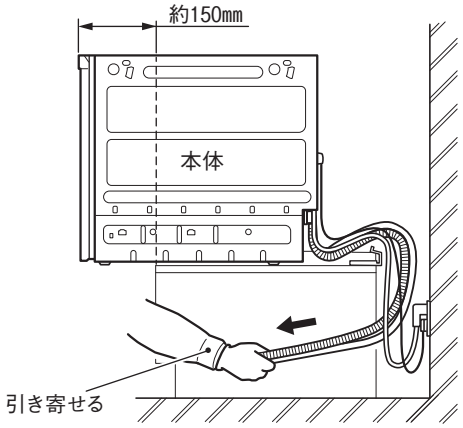
◉ドアや前枠を持たず､必ず本体下面の両端または、側面を手で支えてください。

※本体下面の中央部を支えると、本体下面が変形し（上に反り)、ドアを引き出す際に、水槽下面と本体下面が干渉するおそれがあります。

◉給・排水ホースが折れ曲がらないように、収納キャビネットの下側に挿入してください。

②本体を収納キャビネットの上をすべらしながら押し込んでください。収納キャビネット前面から約150mm ぐらい押し込みを残した位置で収納キャビネットの下側に手を入れて給水ホースと排水ホースを手前に引き寄せてください。(図24)

※このときに、金具取付シートが変形しないように注意してください。



(図24)

③本体を押し込みましたら、後部の給水ホース、排水ホース、電源コードなどで金具取付シートが変形していないか、鏡などを使用して確認してください。(図25)

お願い

◉隣接する機器などに注意して本体中央をゆっくり押してください。

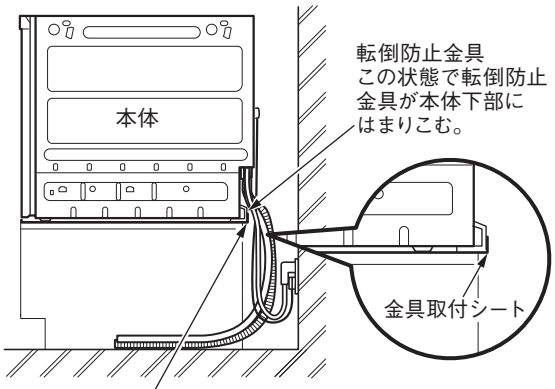
⚠注意

■水槽を開いて本体の出し入れをしない

水シール部が変動して水漏れが起きるおそれがあります。

■給・排水ホースを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟み込んだり、加工したりしない

給・排水不良の原因になります。

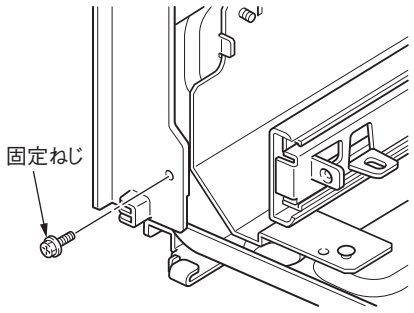


(図25)

8 移動防止金具の取り付け

①ドアを少し引き出して本体手前（左右）下側の固定ねじを取りはずしてください。（④で再び使用します。）（図26）

※図26、27、28、29は見やすくするため、水槽など一部の部品を省略しています。

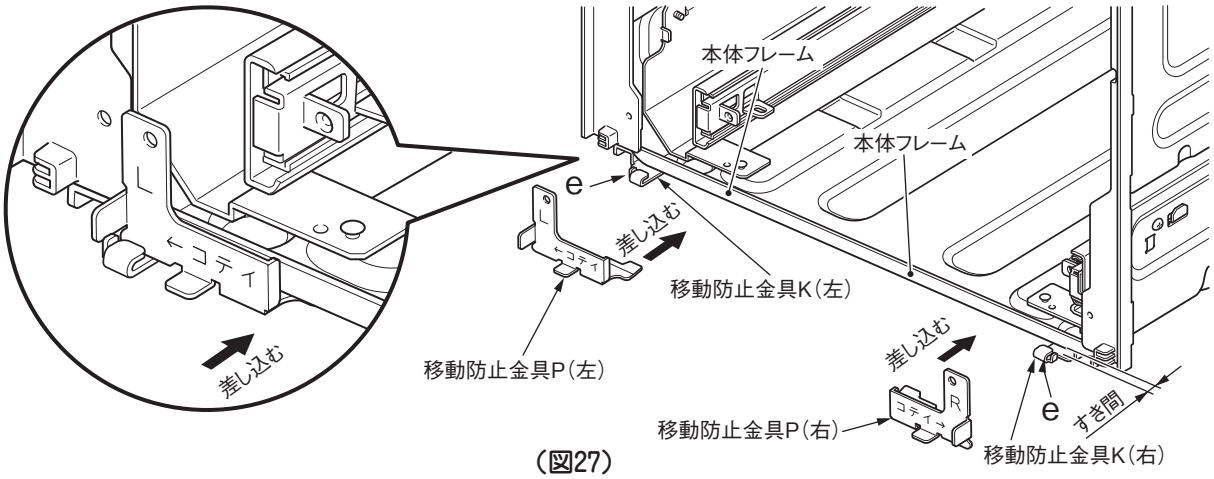


（図26）

②移動防止金具Ｐを本体と移動防止金具Ｋの間に差し込んでください。（拡大図Ａ）このときに、移動防止金具Ｐの先端とねじが干渉しないように少し傾けながら差し込むと作業が容易になります。（図27）

※移動防止金具Ｋの両端部ｅと本体フレームの間にすき間があるように、本体をきちんとキャビネットに納めてください。

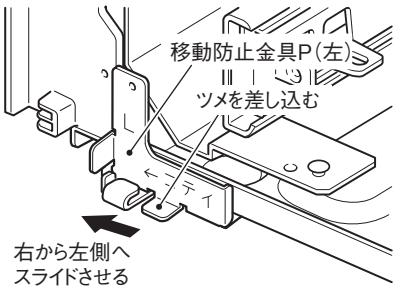
〔拡大図A〕



（図27）

③移動防止金具Ｐ（左）を右から左側へスライドさせて、ツメを差し込んでください。（図28）

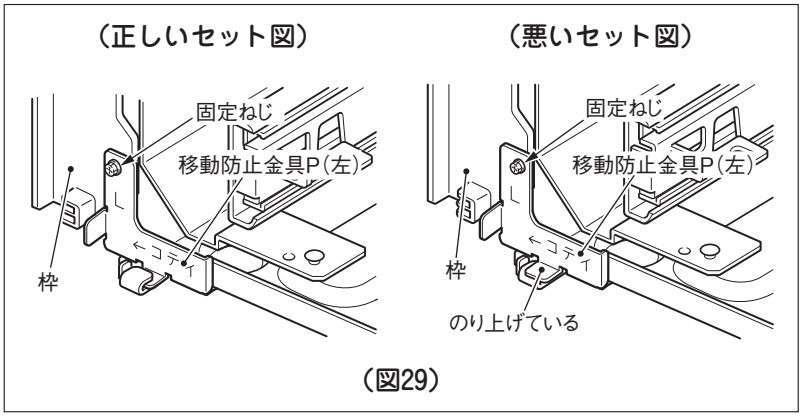
※本体が収納キャビネットの奥までセットされていないと金具が取り付けにくくなります。奥まで本体をセットしてから作業をしてください。



（図28）

④移動防止金具Ｐを①で取りはずした固定ねじで枠に固定してください。（図29）

⑤移動防止金具Ｐ（右）も同様の手順で取り付けてください。



（図29）

お願い

◉必ず移動防止金具Ｐの取り付け作業を実施してください。

※作業をしないとドアの開閉により本体が手前に移動して収納キャビネットから落下するおそれがあります。また、無理に取り付けると、異音の原因や枠が変形してドアが完全に閉まらないことがあります。

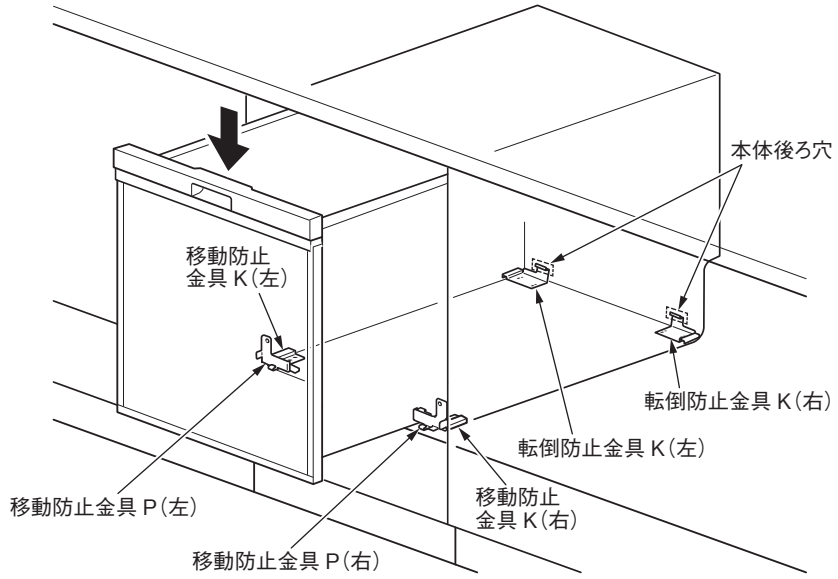
9 転倒防止金具・移動防止金具の確認

①ドアを引き出して、移動防止金具Ｋ（左右）と移動防止金具Ｐ（左右）が正しく取り付けられているか確認してください。

※手前に本体がずれて出てくる場合は、移動防止金具が正しく取り付けられていません。

②本体手前を下に押し付け、奥側が収納キャビネットから浮き上がらないことを確認してください。（図30）

※浮き上がる場合は、転倒防止金具が正しく取り付けられていないか、転倒防止金具が本体後ろ穴にセットされていません。



（図30）

10 化粧パネル・面材の取り付け

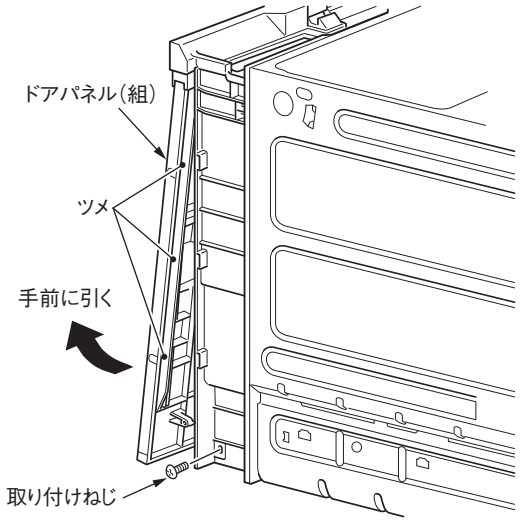
化粧パネルの取り付け

（パネルは別売品です。）

①ドアを少し引き出し、左右下部の取り付けねじ（各１本）をはずしてください。

ドアパネル左右のツメを外側へ軽く開き手前に引くと、ドアパネル（組）がはずれます。（図31）

※ツメを外側へ開きすぎると、破損するおそれがあります。



（図31）

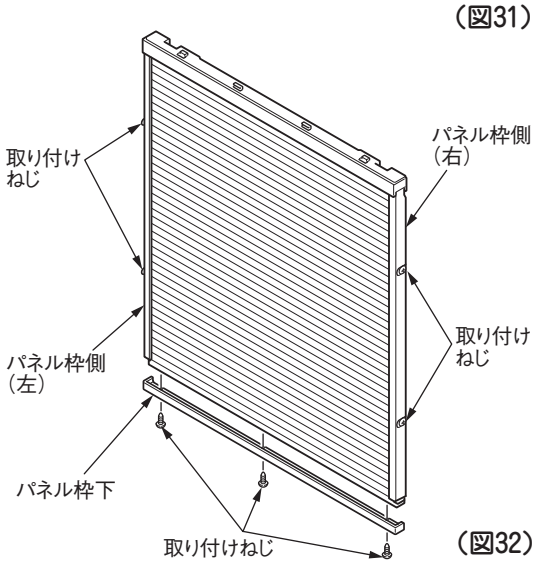
②パネル枠下の取り付けねじ（３本）をはずしてパネル枠下をはずしてください。（図32）

⚠注意

■先にパネル枠（左右）を無理にはずさない

破損の原因になります。

③パネル枠側（左右）取り付けねじ（各２本）をはずしてパネル枠側（左右）をはずしてください。（図32）



（図32）

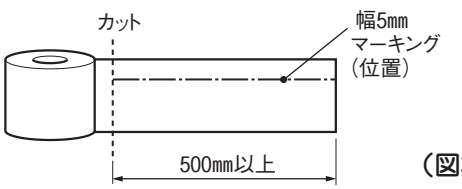
10 化粧パネル・面材の取り付け

④化粧パネルの防水処理を下記の方法で必ず実施してください。

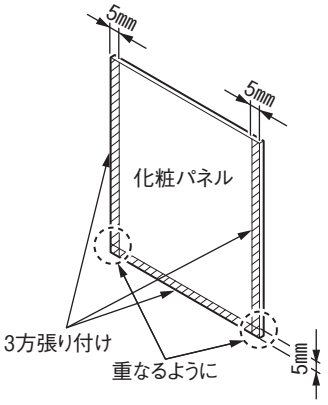
⑴幅50mm の離型紙付アルミ粘着テープ（現地調達品）を準備してください。

⑵500mm 以上で少し長めにカット（３枚用意してください。）した後、硬めのシャープペンシルなどで幅 5 mm の位置にマーキングしてください。（図33）

⑶アルミ粘着テープの離型紙をはがし、マーキング跡にパネル表面側（化粧面）下端を合わせてセットし張り付け、（幅 5 mm を表面側に張り付ける。）あまりはそのまま木口面、裏面側へと張り付けてください。化粧パネルからハミ出た部分は切り取ってください。（図34）



（図33）



（図34）

お願い

◉アルミ粘着テープの表面側は、 5 mm 幅を必ずお守りください。

◉アルミ粘着テープを張り付ける際は、シワのないように張り付けてください。

⑷同様に左右 2 カ所も行ってください。このとき下端と重なる角は、アルミテープをそのまま重ねて張り付けてください。（図34）

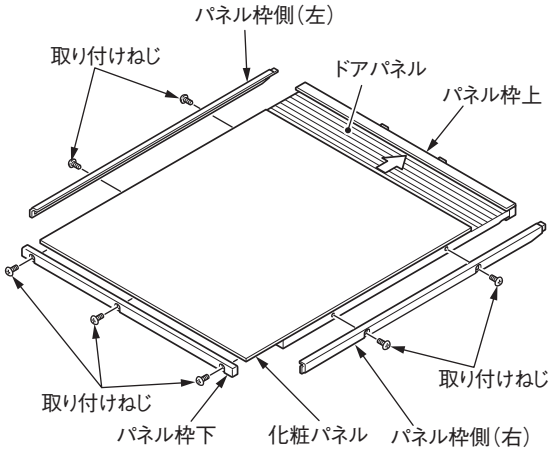
⑤化粧パネルをパネル枠上のすき間に挿入して、化粧パネルを押し付けながらパネル枠側（左右）を取り付け、取り付けねじ（各 2 本）で締め付けてください。（図35）

⑥パネル枠下を取り付け、取り付けねじ（３本）で締め付けてください。（図35）

⚠注意

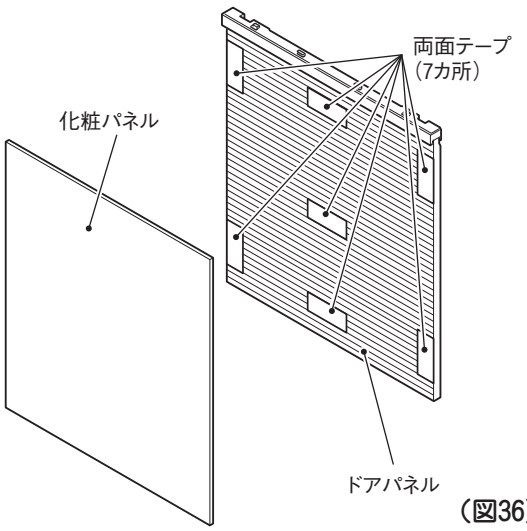
■電動ドライバーは使用しない

パネル枠（樹脂）が変形するおそれがあります。



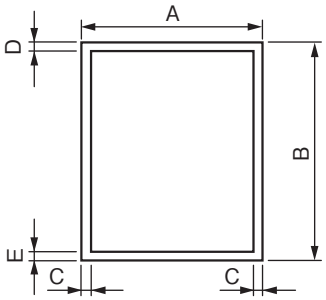
（図35）

※化粧パネルの厚みによっては化粧パネルが浮くことがありますので、両面テープ（現地調達品）でドアパネルに仮付けしてください。（図36）



（図36）

化粧パネルの寸法



（図37）

（単位：mm）

	寸　法
A	433± 1
B	489± 1
C	6.5
D	6.5
E	8.5

⑦はずしたときと逆の手順でドアパネル（組）を取り付けてください。

※必要に応じてキャビネットとの下側のすき間を約 4 ～ 8 mm の範囲で調節できます。

パネル枠上の取り付けねじ（ 2 本）をゆるめ上下にスライドさせて調節してください。その際、ドアパネルの桟を目安に、パネル枠上が左右均等になるように固定してください。（図39）

⚠注意

■電動ドライバーは使用しない

パネル枠（樹脂）が変形するおそれがあります。

面材の取り付け

（面材は別売品です。）

①面材に下穴が開いていない場合は右図の位置に下穴を開けてください。（図40）

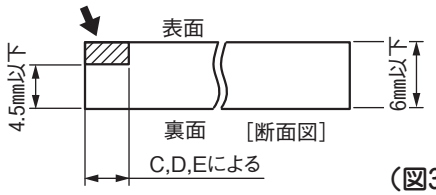
②面材の下穴が開いている位置に付属の取り付けフック（上 2 個、下 2 個）を「外側」の刻印の矢印に従って、ねじ（ 先トガリねじ：8 本）で取り付けます。（図41）

⚠注意

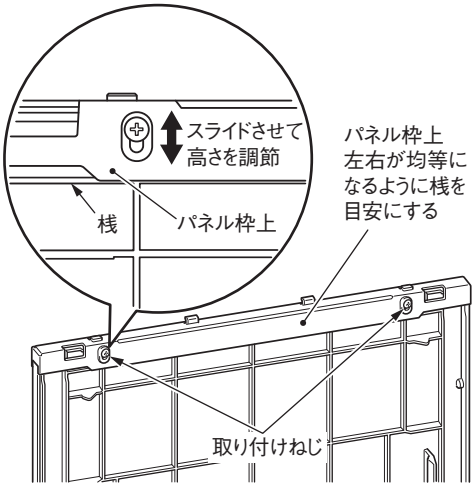
■電動ドライバーは使用しない

取り付けねじの頭や面材が使用できなくなり、固定できなくなるおそれがあります。

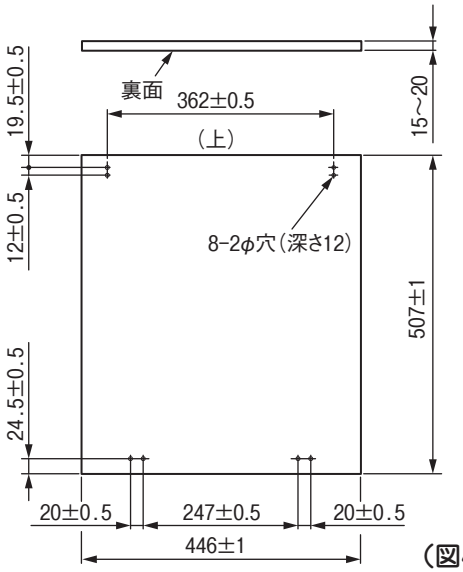
厚さ4.5mm を超えるパネルをご使用になる場合は、外周（斜線で指定した部分）の表面を、厚さ4.5mm 以下になるようにけがき線を入れ、斜線部を削り取ってください。ただし、 6 mm を超えるパネルは使用できません。



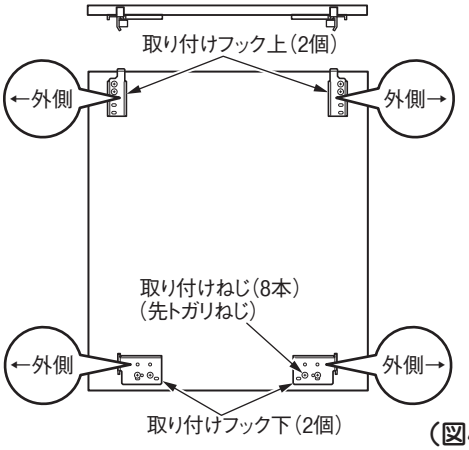
（図38）



（図39）



（図40）



（図41）

水槽への取り付け

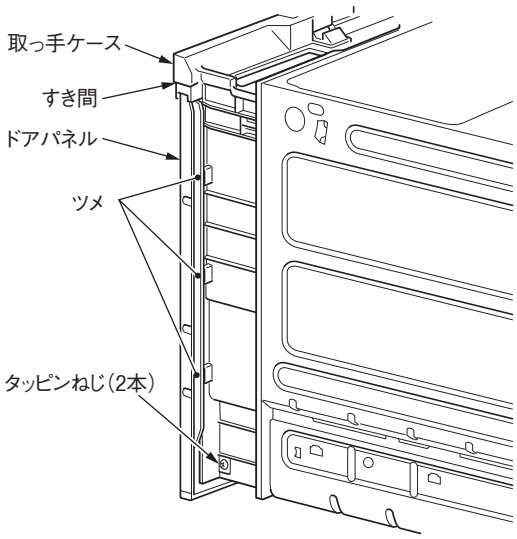
①ドアパネルまたは面材を持ち上げながらねじ(タッピンねじ：２本）で固定し、取っ手ケースとのすき間がないか確認します。（図42）

※ドアパネルの場合は、左右のツメを水槽にかけてください。

⚠注意

■電動ドライバーは使用しない

ねじ山がつぶれて締まらなくなるおそれがあります。



（図42）

②面材の場合は、キッチンのドアの出代が揃っているかを確認してください。

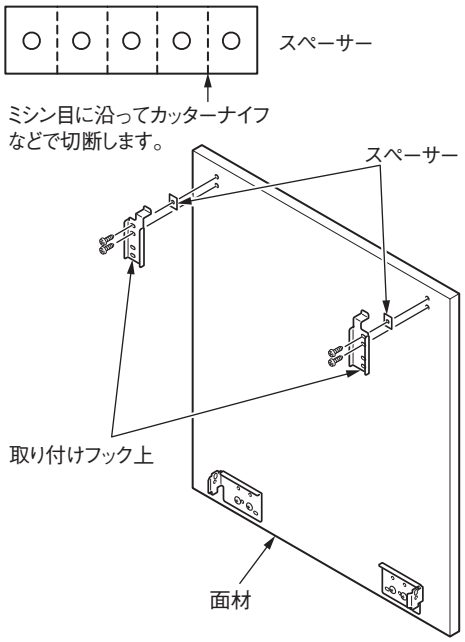
面材が奥まっている場合

◉スペーサーで調整を行ってください。（図43）

※調整は１枚（１mm）までにしてください。

面材下部が出っ張っている場合

◉背面に電源コードなどがかみ込んでいないか確認してください。



（図43）

③面材の場合は、下端と隣接するキャビネットのドア下端が合っているかを確認してください。

面材が低い場合

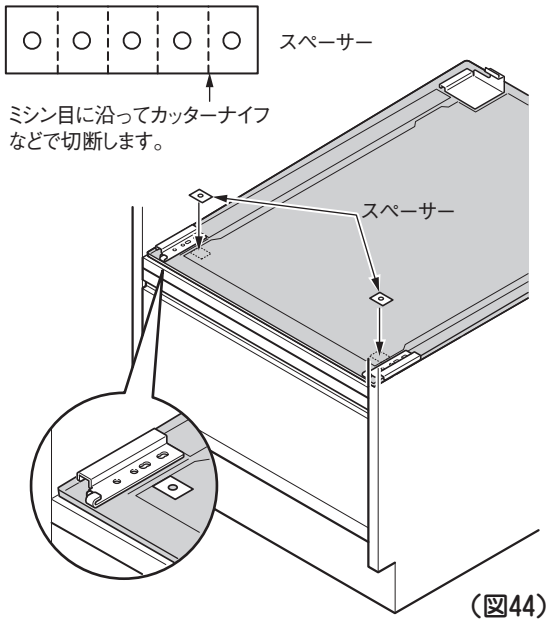
◉移動防止金具Ｐを取りはずします。

◉本体を持ち上げて、収納キャビネットと本体の間（金具取付シート参照）に両面テープを貼ったスペーサーを入れて高さ調整を行ってください。（図44）

※両面テープは現地調達してください。

※調整は１枚（１mm）までにしてください。

◉調整後、取りはずした移動防止金具Ｐを取り付けてください。



（図44）

11 給水（給湯）管との接続

◉止水栓（ハンドル式固定ゴマタイプ）にフィルター付パッキンを入れ給水ホースを確実に締め付けてください。（図45）

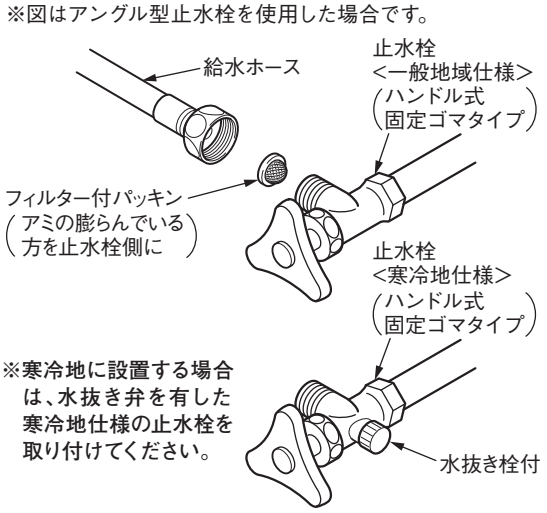
お願い

◉ナットは手で軽く締めこんだ後、約半回転ぐらい締め付けてください。

※適正な締め付けトルクは 5 ～10N・m（50～100kgf・cm）です。

⚠注意

■フィルター付パッキンは必ず所定の位置に取り付ける



（図45）

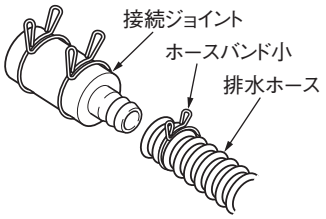
12 排水管との接続

◉接続ジョイントと排水ホースを接続します。（図46）
（ホースバンド小は排水ホースに取り付けてあります。）
次に、排水管（HT20）の先端から25mm のところに目印のラインを付けます。
その後、排水管（HT20）に接続ジョイントをラインまで挿し込み（接続ジョイントを挿し込みすぎないでください。）、ホースバンド大で固定してください。（図47）
この時、排水ホースは給湯（給水）管や、給水ホースの上を通るように配管してください。（図48）

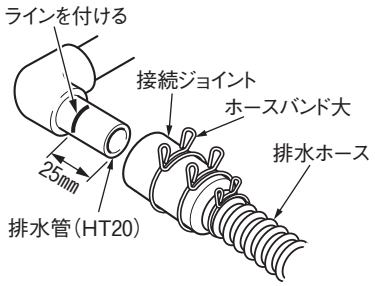
⚠注意

■排水ホースを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟み込んだり、加工したりしない

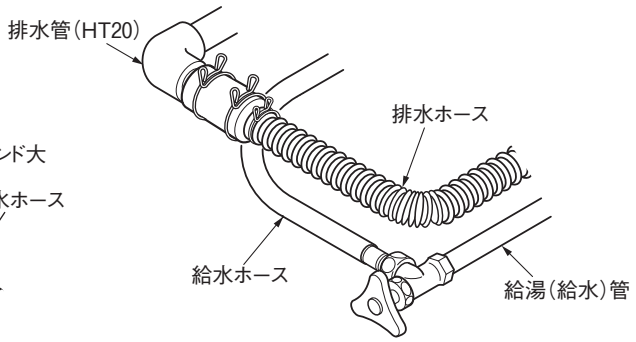
水漏れ・排水不良の原因になります。



（図46）



（図47）



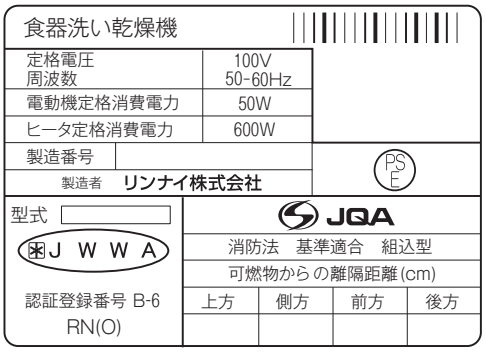
（図48）

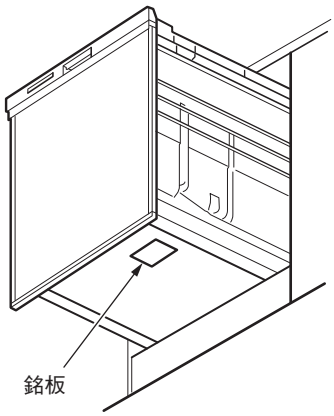
8 設置後の点検

チェックリスト				
点検		点検内容	参照ページ	チェック
その周辺機器および	電源（電圧）	銘板表示と使用電源が適合していますか。	P6	
	ドアの開閉	他の機器への障害はありませんか。 異音はありませんか。 キッチン開口寸法、転倒防止金具、移動防止金具の取付位置は正しいですか。	P4、P5、P10、P14、P15	
	金具取付シート 転倒防止金具 移動防止金具	金具取付シートおよび転倒防止金具、移動防止金具は取り付けましたか。	P10、P14、P15	
給湯（給水）・排水接続	給湯器との接続の場合	指定する給湯器に接続されていますか。	P7～ P9	
	フィルター付パッキン	給水ホースと止水栓との接続部にフィルター付パッキンを挿入しましたか。	P19	
	排水ホース	排水管との接続部は確実に接続したことを確認しましたか。また押しつぶされたり、無理に折れ曲がったりしていませんか。	P19	
電気接続		電源コンセントは専用回路で、電源プラグは125V 15A のアースターミナル付埋め込みコンセントに接続しましたか。	P6	
		アース線を接続しましたか。	P6	

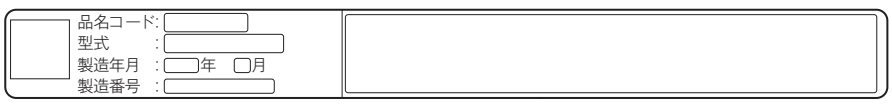
※点検・修理の際には製造番号の確認が必要になることがあります。
製造番号は、銘板またはあんしん点検銘板に表示してあります。

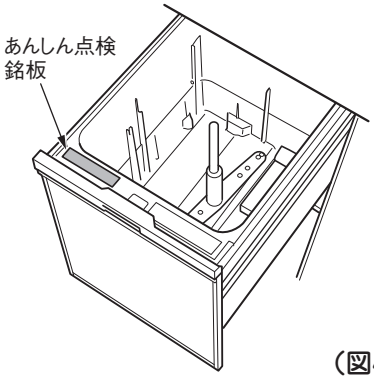
〈銘　板〉





〈あんしん点検銘板〉





（図49）

9 試 運 転

※試運転の前に必ず他の水栓より数リットルの水を流して、配管内のさびなどを流してください。

■次の手順で試運転を行ってください

□①止水栓を開きます。

□②食器かごを水槽内から取り出します。

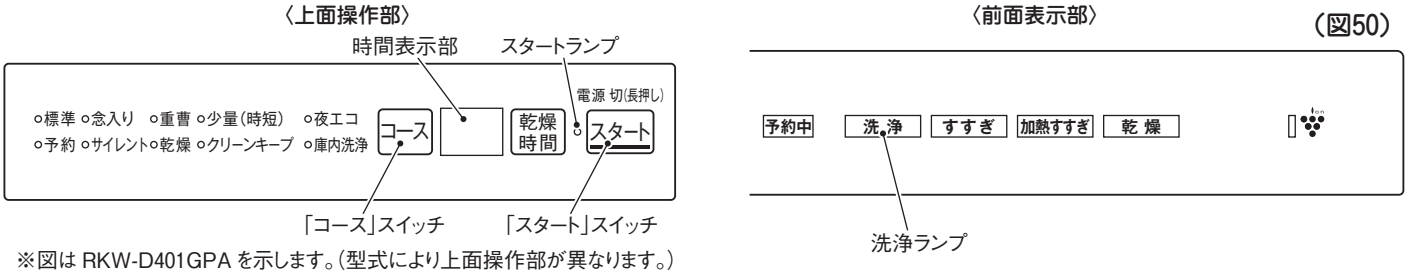
※試運転の時に配管内のさびが食器かごに付着するおそれがあるためです。

□③ドアを少し開けます。

□④「スタート」スイッチを長押しして、電源を「切」にします。

□⑤「コース」スイッチを押しながら、「スタート」スイッチを10秒以内に5回押します。（このときブザーが「ピピッ」と鳴り、前面表示部の洗浄ランプが点滅します。また、時間表示部に「5U」が点滅して表示されます。）

□⑥「スタート」スイッチを押します。（スタートランプが点灯します。）ドアを閉じます。
「試運転」コースが開始し（洗浄ランプが点滅から点灯に変わります。）、約3分間で終了します。



※図はRKW-D401GPAを示します。(型式により上面操作部が異なります。)

(図50)

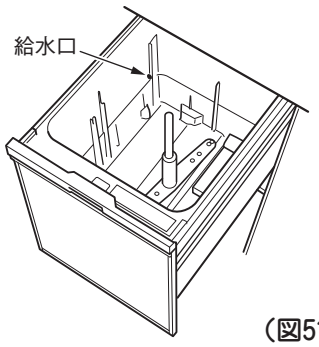
□⑦次の確認を行ってください。

◉一定量の水が入ればシャワーを噴射しながら水槽内のノズルが回転します。
（噴射音：バシャバシャ音が聞こえるか確認してください。）

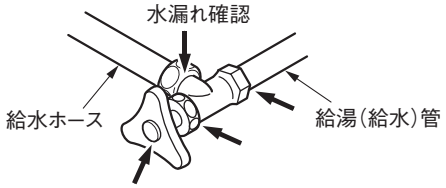
※試運転は、運転が終了するまで確実に行ってください。途中で停止させないでください。

※試運転が20分以上かかる場合は、フィルター付パッキンに異物が付着している可能性があります。フィルター付パッキンをはずして掃除してください。

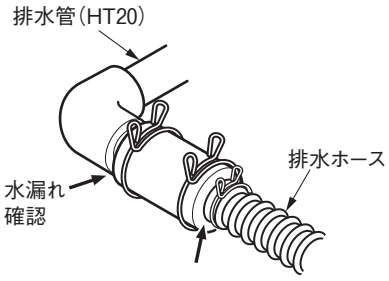
※運転中に次ページの異常報知が表示された場合は、表示内容に対応した処置を行ってください。



(図51)



(図52)



(図53)

◉運転が終了するとブザーが鳴り、ランプが全て消灯し、電源が「切」の状態になりますので、運転終了を確認後、ドアを開けてください。（水槽内の水が排水されていることを確認してください。また運転中給排水接続部からの水漏れがないことを充分確認してください。）

◉電源が「切」の状態で、ドアを開き、水槽内の給水口から水が出ていないことを確認してください。

□⑧食器かごを元どおりセットしてください。

10 異常報知について

◉安全装置作動時は、「ピーピーピー」とブザーが鳴って、上面の運転ランプが点灯・点滅します。下記内容を確認してください。

● 消灯	☼ 点滅	○ 点灯

上面操作部	表示	原　　因	処　　置
☼標準 ●念入り ●重曹 ☼予約 ●サイレント☼乾燥	04	**泡センサー作動**	◉ドアを開け、給水口から水がでていないか確認する。(21ページの図51参照）水がでている場合は、水道栓を閉めてください。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。 ◉配電盤のブレーカは OFF にしないでください。
●標準☼念入り ●重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	16	**過熱防止センサー作動**	◉高温の水を給湯した時に起こります。 ◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
●標準 ●念入り☼重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	17	**水検知センサー作動**	◉水漏れのおそれがあります。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。 ◉水道栓（元栓またはキャビネット内の止水栓）を閉めてください。 ◉配電盤のブレーカは OFF にしないでください。
●標準 ●念入り ●重曹 ☼予約 ●サイレント☼乾燥	18		
☼標準 ●念入り☼重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	24	**スタートスイッチの故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
☼標準 ○念入り ○重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	26	**水位センサー作動**	◉ドアを開け、給水口から水がでていないか確認する。(21ページの図51参照）水がでている場合は、水道栓を閉めてください。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。 ◉配電盤のブレーカは OFF にしないでください。
●標準☼念入り☼重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	31	**過熱防止センサーの故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
●標準 ●念入り☼重曹 ☼予約 ●サイレント☼乾燥	32		

上面操作部	表示	原　　因	処　　置
☼標準 ●念入り ●重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	43	**水検知センサーの故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
●標準 ○念入り ●重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	50	**ヒーターの故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
☼標準 ●念入り ☼重曹 ☼予約 ●サイレント ●乾燥	56	**給水弁の故障**	◉ドアを開け、給水口から水がでていないか確認する。（21ページの図51参照）水がでている場合は、水道栓を閉めてください。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。 ◉配電盤のブレーカは OFF にしないでください。
☼標準 ●念入り ●重曹 ○予約 ●サイレント☼乾燥	57	**給水検知機能作動**	◉電源を「切」にする。 ◉断水の場合は、断水の回復を待って運転する。 ◉水道栓（元栓およびキャビネット内の止水栓）は必ず開栓する。 ◉フィルター付パッキンに付着している異物を除去する。
☼標準☼念入り ●重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	60	**排水検知機能作動**	◉電源を「切」にする。 ◉排水ホースに折れぐせがついていないか確認する。（折れぐせがついている場合は直す。）
☼標準 ●念入り ☼重曹 ○予約 ●サイレント ●乾燥	62	**乾燥ファンの故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
☼標準☼念入り ☼重曹 ●予約 ●サイレント ●乾燥	63	**洗浄排水ポンプの故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。
○標準 ●念入り ●重曹 ●予約 ●サイレント☼乾燥	70	**電子部品の故障**	◉部品が故障しています。 ◉至急お買い上げの販売店にご連絡ください。

※「スタート」スイッチを押さずにドアを閉めると、「ピーピーピー」と鳴ります。その際は「スタート」スイッチを押して、ドアをゆっくりと閉めてください。

11 試運転後の作業

◉ 9 ページの「１．準備」ではずした収納キャビネットの引き出しおよび点検口のふたなどを元の状態になるよう取り付けてください。

12 冷却排水の設定

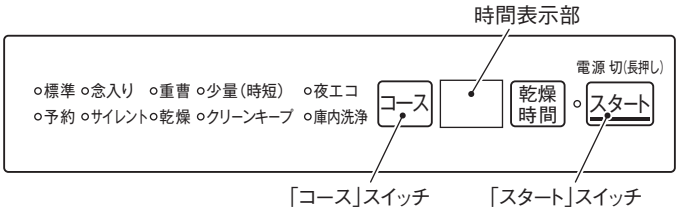
◉排水管が耐熱仕様ではない場合に、冷却排水の設定をしてください。（本管に至るまでの枝管が VP 管の場合など）

設定方法

①ドアを少し開けます。
②「スタート」スイッチを長押しして、電源を「切」にします。
③「コース」スイッチを押しながら、「スタート」スイッチを10秒以内に 5 回押します。（このときブザーが「ピピッ」と鳴り時間表示部に「５Ｕ」が表示されます。）
④「コース」スイッチを 5 秒間押しつづけます。（このとき時間表示部に「８８」が表示されますが、そのまま押し続けてください。）
ブザーが「ピピピピピッ」と鳴り、冷却排水が設定されます。
⑤上記の設定が完了すると、前面表示部の予約中ランプが点灯します。（設定なしの場合は、消灯）
⑥「スタート」スイッチを長押しして、電源を「切」にします。

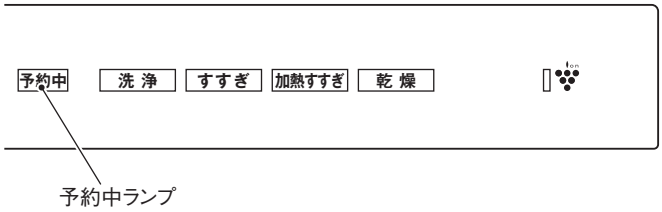
（図54）

〈上面操作部〉



※図は RKW-D401GPA を示します。(型式により上面操作部が異なります。)

〈前面表示部〉



※工場出荷時の設定は、冷却排水なしになっております。
設定を変更するには、上記作業を再度行います。
（このときブザーが「ピピッ」と鳴り、予約中ランプが消灯します。）

13 お客様への説明

■設置事業者様へ

●取扱説明書によって、使用方法を説明してください。特に「安全上のご注意」「使用方法」をよく説明してください。
●保証書に必要事項を記入のうえ、お客様にお渡しして、取扱説明書に従って、「保証・サービス」について説明してください。

お客様への取り扱い説明

◉取扱説明書にそって製品の取り扱いを説明してください。

冷水の排水行程の設定方法

①給湯配管をした場合は、給湯器のメリットを出すために冷水の排水行程を設定していただくことをお客様へおすすめしてください。

冷水の排水行程：最初から最適な給湯温度でお湯を供給し、短時間で食器の洗浄を行うため、配管中にたまった冷たい水を排水する行程です。

設定方法

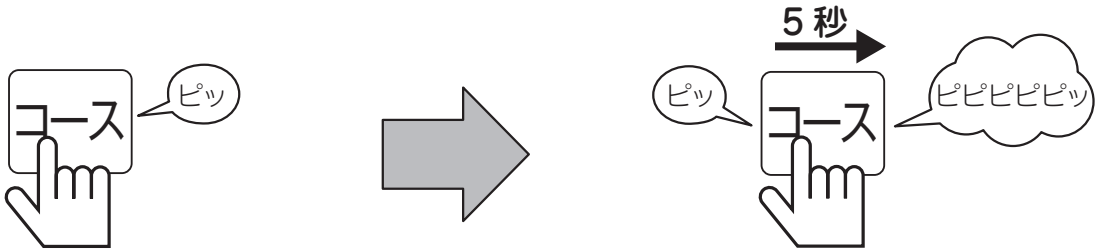
ⅰ）ドアを少し開けます。

ⅱ）「スタート」スイッチを長押しして、電源を「切」にします。

ⅲ）「コース」スイッチを数回押して「夜エコ」コースを選択します。

ⅳ）「コース」スイッチを 5 秒長押しします。（このとき「予約」コースになりますが、そのまま押し続けてください。）

ⅴ）「スタート」スイッチを長押しして、電源を「切」にします。



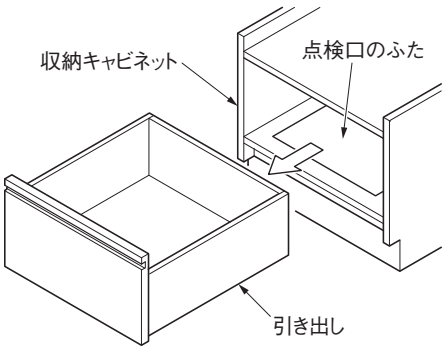
ブザーが「ピピピピピッ」と鳴り、冷水の排水行程が設定されます。

②冷水の排水行程を取り消したいときは上記の操作を再度行ってください。（「ピピッ」とブザーが鳴ります。）

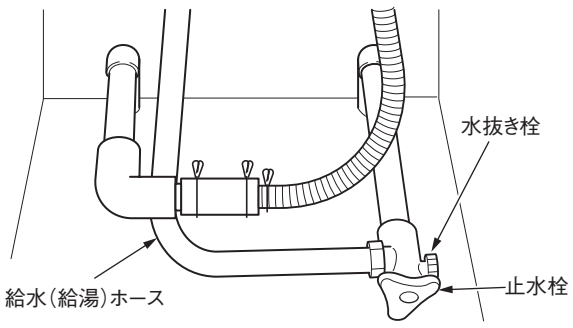
寒冷地において冬季長期間使用しない場合の水抜き方法

①収納キャビネットの引き出しを取りはずします。底面に点検口のふたがある場合はこれも取りはずします。（図55）

給水（給湯）ホースが、止水栓に図56のように接続されています。

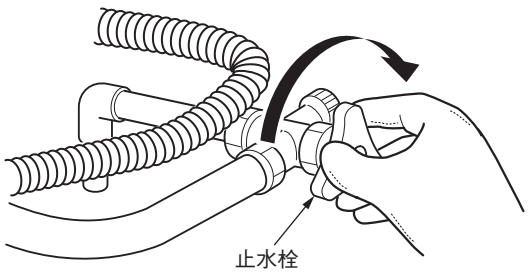


（図55）



（図56）

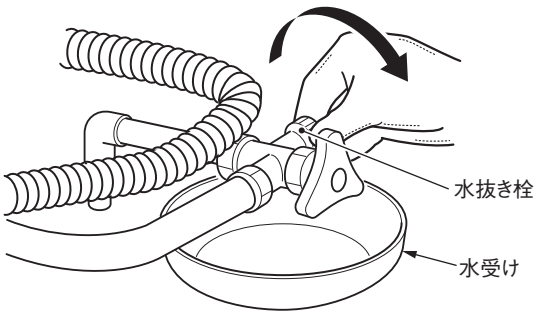
②止水栓を閉じます。（図57）



（図57）

③水抜き栓の下に水受けを置き、水抜き栓を取りはずします。（図58）

※水受けは約100mL が受けられる皿またはトレーなどを準備してください。（高さ25mm 以下）



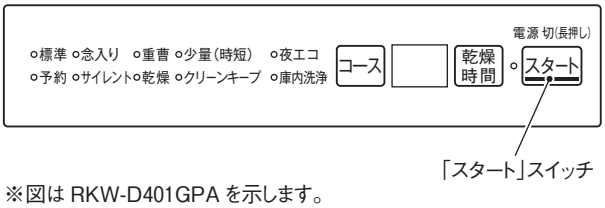
（図58）

④「スタート」スイッチを押して、電源を「入」にします。

⑤コースは「乾燥」「クリーンキープ」以外を選択してください。

⑥ドアをゆっくり閉めて、運転をスタートします。
（運転がスタートして約50秒後に給水弁が開放されます。）

〈上面操作部〉

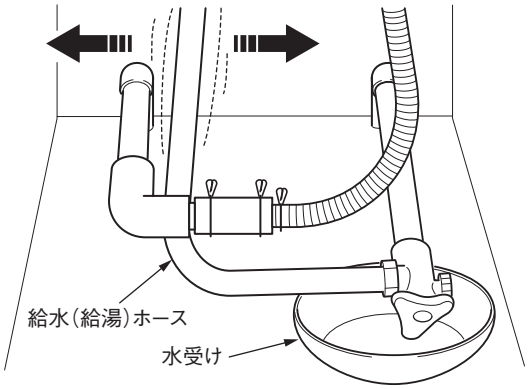


※図は RKW-D401GPA を示します。
（型式により上面操作部が異なります。）

（図59）

⑦給水（給湯）ホースを左右に振ったり、軽くたたいたりして衝撃を与えます。（図60）

⑧水受けに残水が排出されたあと、水抜き栓開口部に乾いた布を押し当て、水滴が落ちなくなるまで内部の水を吸い取ります。



（図60）

⑨「スタート」スイッチを長押しして、電源を「切」にし、排出水を処理します。

⑩③ではずした水抜き栓を取り付けます。

※止水栓は再度使用するまで、閉じたままにしてください。

⑪収納キャビネットの引き出しおよび点検口のふたを取り付けます。

⚠注意

■水抜き時に取りはずした水抜き栓は必ず取り付ける

◉水槽内に食器かご、小物入れが入っていることを確認してください。取扱説明書はお客様に渡してください。

◉保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。

14 仕　様

型式	RKW-D401GPA RSW-D401GPA RKW-D401GPMA RKW-D401UGP RKW-D401UGPM	RSW-D401GPEA	RKW-D401LPA RSW-D401LPA RKW-D401LPMA RKW-D401ULP RKW-D401ULPM RSW-D402ULP	RSW-D401LPEA RSW-D402ULPE
電源電圧	AC100V			
周波数	50Hz または60Hz			
定格電流	6.5A			
消費電力 洗浄モータ	50W			
消費電力 ヒータ	600W			
消費電力 最大消費電力	650W			
外形寸法	（幅）448mm ×（奥行）626mm ×（高さ）548mm			
質量	21.5kg			
水圧	0.03～1 MPa（0.3～10kgf/cm^2）			
洗浄方式	回転ノズル噴射式			
すすぎ方式	ためすすぎ方式			
乾燥方式	ヒータとファンによる強制排気乾燥			
庫内容積	63L			
標準収納容量	大皿　6点 中ばち　7点 小皿　9点 茶わん　7点 吸物わん　6点 湯のみまたはコップ　12点 はし　6組 スプーン　6点 フォーク　6点	大皿　4点 中ばち　4点 小皿　8点 茶わん　5点 吸物わん　4点 湯のみまたはコップ　12点 はし　4組 スプーン　4点 フォーク　4点	大皿　6点 中ばち　7点 小皿　9点 茶わん　7点 吸物わん　6点 湯のみまたはコップ　12点 はし　6組 スプーン　6点 フォーク　6点	大皿　4点 中ばち　4点 小皿　8点 茶わん　5点 吸物わん　4点 湯のみまたはコップ　12点 はし　4組 スプーン　4点 フォーク　4点

※電源プラグを差し込んだ状態では電子回路を作動させるため、約1W 電力を消費しております。

（工場管理）
JW0022-826×01（00）
260500Ⓐ
07000008097250